

香川高等専門学校 平成28年度 年度計画・実績報告

S: 年度計画を十分に履行している
 A: 年度計画をほぼ履行している
 B: 年度計画を十分に履行していない
 C: 年度計画を履行していない

香川高等専門学校		自己評価
平成28年度 年度計画	平成28年度 実績報告	
独立行政法人国立高等専門学校機構の平成28年度の業務運営に関する計画に基づき、香川高等専門学校(以下「香川高専」という。)における平成28年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。		
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に資する目標を達成するために取るべき措置	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に資する目標を達成するために取るべき措置	
1 教育に関する事項	1 教育に関する事項	
(1) 入学者の確保	(1) 入学者の確保	
① (a)各中学校が実施する高校説明会に参加するとともに、後援会と連携して入学案内配布等の広報活動を進める。	① (a)47中学校の高校説明会に参加し、学校説明を行った。後援会支部総会で入学案内配布等広報活動を行った。	A
① (b)教員・在校生による出身中学校訪問を実施し、香川高専をPRする。	① (b)教員8名が出身中学校を訪問し学校説明を、在校生72名が出身中学校を訪問し、近況報告と学校説明を行った。在校生による出身中学校訪問は、香川高専のPR活動に役立った。	A
① (c)地域との連携を深め、小中学生と保護者や一般市民を対象にしたイベントに参加して香川高専をPRする。小中学生向け公開講座や地域連携に係る各種イベント等を開催して積極的な広報活動を行う。	① (c)「おきたコミュニティまつり」、「金蔵寺こどもまつり」、「法の園いよいよまつり2016」、「みとよ水フェスタ2016」、「ふれあいまつり城崎」、「仁尾八朔人形まつり」、「みとよ商工まつり」等の小中学生と保護者や一般市民を対象にしたイベントに参加し香川高専をPRした。「科学教室inさぬきこもの園」、「からくり工房2016」、「香川ものづくり教室2016」、「夏休みお助け塾」、「模擬人工衛星の製作・打ち上げ講座」、「サイエンスクラブのおもしろ科学体験」、「サウンドロボカーをつくらう!」等の小中学生向けの公開講座や「簡単ロボット教室」、「おもしろ科学実験教室」、「小学生を対象としたロボット工作教室」等イベントを開催して積極的な広報活動を行った。建設環境工学科主催で小中学生親子対象の土土施設見学バスツアーを開催、62名の参加があった。小中学生向けの公開講座を12件開催しPR活動を行った。	S
① (d)入学アンケートを実施し、訪問する学習塾を検討後、学習塾を訪問して塾講師に香川高専の学生募集説明を実施する。	① (d)新入生に対し入学アンケートを実施し、訪問する学習塾を検討後、昨年より6校増加し33校の学習塾を訪問し学生募集説明を行った。	A
① (e)入学者選抜学力検査のマークシート方式導入について、中学生への周知を行う。	① (e)学校案内に学力検査のマークシート方式導入についてのチラシを同封、また本校HPに掲載し周知を行った。入学者募集説明会と体験入学の際にもマークシート方式導入について周知した。	A
① (f)高専のモブコトに関するPRを行い、将来の入学生確保を目的とし、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストに出場したロボット等を用いて小学校・幼稚園を訪問しロボット教室を開催する。	① (f)高松キャンパスでは、幼稚園と2つの小学校において、高専ロボコンで全国優勝したロボットを用いたデモンストレーションや体験講座を行った。説明会キャンパスでは、仁尾町児童館、観音寺市大野原会館、三豊市民交流センター、三豊市三野町社会福祉センターで「簡単ロボット教室」を開催した。川之江北中学校主催の「北中文化祭ふれあ地域体験講座」で簡単ロボット教室を行い、高専ロボコンのロボットによるデモンストレーションや体験講座を行った。	A
② (a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスを複数回開催する。	② (a)高松キャンパス、説明会キャンパス、徳島、岡山、倉敷の5会場で入学者募集説明会を開催した。また、香川、徳島、愛媛、岡山県内の8地区で地区別学校説明会を開催した。体験入学を3回実施した。オープンキャンパスを両キャンパス各2回実施した。	A
② (b)「高専女子百科 Jr(香川高専版)」冊子、「高専キラキラガール」冊子、「高専女子技術者キャリアデザイン」冊子を用いて、女子中学生対象の説明会やHPの女子中学生向けページを充実させる。	② (b)「高専女子百科 Jr(香川高専版)」冊子、「高専キラキラガール」冊子、「高専女子技術者キャリアデザイン」冊子を中学校・中学生に配布した。また、女子中学生向けにHPを更新した。	A
③ (a)入学案内を作成し、中学生やその保護者に配布するとともに、中学生向け香川高専Webコンテンツを充実させる。	③ (a)入学案内、学校案内2017を作成し、オープンキャンパスや地区別学校説明会等で中学生やその保護者に配布した。入学案内、学校案内2017をHPに掲載した。	A
③ (b)入試の情報発信に、香川高専HP、公共施設展示スペース等を活用する。	③ (b)学校HPに入学者募集関連行事並びに募集資料を掲載し、行事開始前に随時更新した。香川県立図書館の展示スペース(掲示板)に学生募集ポスターを常時掲示した。	A
③ (c)高専機構の作成した広報資料を有効に活用する。	③ (c)「キラキラ高専ガール」を入学者募集説明会、体験入学、オープンキャンパス、中学校訪問で配布した。高専広報映像「21世紀のエンジニアを目指す、進化する高専」を地区別学校説明会等で放映した。国立高等専門学校機構マンガで伝えるエンジニアの姿実施委員会が作成した「エンジニア物語」を中学校の道徳指導教諭を対象とした道徳説明会で配布した。中学生向けパンフレット最新版「高専という選択」をオープンキャンパスで活用した。	A
④ (a)募集要項の記述を見直し、志願者に正確な情報を伝える。	④ (a)志願者並びに中学校教員に正確な情報となるよう、入学者選抜の基本方針を明文化する等、募集要項の記述を見直した。	A
④ (b)入学者の追跡調査を実施し、学力選抜方法を検討する。	④ (b)入学者の進級・原級等の追跡調査を行い、その結果を分析し、平成30年度入試の学力選抜方法を見直した。	A
⑤ (a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等を通じて高専の良さをアピールする。	⑤ (a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等を通じて高専の良さをアピールした。また、中学校主催の高校説明会に女性教員が参加し、学校説明を行った。	A
⑤ (b)オープンキャンパスにおいて女子学生コーナーを含んだ高専生活紹介コーナーを開設し、各学科の女子学生が女性目線の学科紹介や入学後のキャンパスライフ等について中学生や保護者向けに説明する女子学生コーナーを設ける。	⑤ (b)オープンキャンパスで女子学生コーナーを含んだ高専生活紹介コーナーを開設した。女子学生コーナーでは、女子学生が中学生や保護者に学科、学校生活、寮等の説明を行った。	A
⑤ (c)岡山・愛媛・徳島地区で学校説明会、入学者募集説明会を行い、入学志願者を確保する。	⑤ (c)岡山・徳島地区で中学校道徳指導教員を対象とした入学者募集説明会を行った。岡山・徳島・愛媛地区で中学生及び保護者を対象とした学校説明会を行った。	A
⑤ (d)女子学生の修学環境改善のための女子トイレ・女子更衣室等について、必要に応じて整備を推進する。また、女子寮の整備計画を策定する。	⑤ (d)整備計画に基づき、高松キャンパス機械電子工学科棟に女子トイレ・女子更衣室を設ける計画を策定した。また、説明会キャンパス第一講義棟の女子便所について、女性の利便性向上のため、2階から3階へ変更する便所改修を実施した。女子学生寮の整備計画書について、説明会キャンパスの整備計画を改訂し、高松キャンパスは作成中。	A
(2) 教育課程の編成等	(2) 教育課程の編成等	
①-1(a) 改訂計画に基づき、本科の教育課程の見直し、編成を行う。平成28年度に機関別認証評価を受審し、その評価結果に基づき、各学科の教育環境・内容の充実を図る。	①-1(a) 平成30年度改訂計画に基づき、本科教育課程の編成を検討した。また、改訂に伴う教務関係の規程の改定について検討した。平成28年度機関別認証評価を受審した。	A
①-1(b) 地域性を踏まえて、学科や専攻科の将来構想を策定し、教育研究の個性化、活性化、高度化のために改訂再編の計画を進める。	①-1(b) 教務委員会・入学試験委員会・入学者獲得対策委員会及び新学科設置委員会において平成30年度改訂計画を検討した。	A
①-1(c) 特例認定の指導教員に適する教員の増加対策を進めることで特別研究指導体制の充実を図る。 ・教育課程、履修規程の現状分析を行い、必要に応じて改正に取り組む。	①-1(c) 平成28年度の申請により、指導教員8名、補助指導教員6名が新たに認定を受けた。修了生の全員が学位を授与された。	A
①-2 機構本部との情報共有を密に行う。	①-2 機構本部主催の各種会議等資料について、学内で情報共有に努めた。	A
② (a)低学年における基礎的な科目の教育課程について継続的に到達度を把握し、「数学」、「物理」については、「学習到達度試験」過去問を採集し反映させる取組など、試験結果を重視した学力向上及び教育内容の改善措置を講じていく。また化学については、四国共通試験を実施する。	② (a)数学・物理・英語などの低学年における基礎的な科目の学力の達成度を把握するよう努力した。数学・物理については、過去問採集に反映させ、プリント等を利用して、学力向上に努めた。その結果、到達度の確認・改善が図れた。また、化学については、四国共通試験を1月に実施した。	A
② (b)「英語」については、技術者として必要とされる英語力の涵養のため、3年生全員にTOEIC BridgeまたはGTECを、4年生にはTOEIC IP等の外部試験を受験させる。外部試験の結果を分析し、それをもとに教育内容の改善に努める。	② (b)「英語」については、高松キャンパスでは専攻科1年生(全員)と本科1~5年生・専攻科2年生(希望者)に対し、説明会キャンパスでは4年生と専攻科1年生に、TOEIC IPを実施した。低学年に、TOEIC BridgeやGTECを実施した。それらの結果を踏まえ、多読と精読を組み合わせた授業を展開する改善を行った。GTECやTOEIC IPにおいてスコア平均が上がった。具体例では4年生一斉受検のTOEIC IPスコアが平均点で約10点上がった。	A
③ 昨年度、通年の座学において全科目前期・後期の2回実施したアンケート結果を踏まえ、今年度の授業評価アンケート実施方法を検討する。その後、授業評価アンケートを在學生に実施し、教育活動の改善・充実に資するために授業の評価結果について、全教員にフィードバックする。	③ 昨年度の授業評価アンケートを見直し、本年度は紙媒体のアンケートをなくし、座学全科目についてWebによる授業評価アンケートを2回実施することにした。前期末に1回を実施した。アンケート結果に基づき、数科目についてクラスで対話会を行い改善に向けた報告書を出した。前期のアンケート結果を踏まえ、後期に授業改善を行った。	A
④ 「全国高等専門学校体育大会」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校デザインコンペティション」、「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストに積極的に学生を派遣し、香川高専のPRに繋がるような優秀な成績を挙げられるよう、学生の課外活動意欲向上となる支援措置を講じ、関連学科においても働きかけを行う。	④ 高専ロボコン2016四国大会において高松キャンパス「八機八機(ハッキヤコウ)」が優勝し全国大会出場、「明日朝(アスカ)」がアイデア賞を受賞した。高松キャンパス「八機八機(ハッキヤコウ)」が高専ロボコン2016全国大会で優勝した。全国高等専門学校デザインコンペティション(高専デザコン)に本校から建設環境工学科のチームが構造デザイン部門に出場した。全国高等専門学校第27回プログラミングコンテストに両キャンパスから課題部門と自由部門、競技部門に参加し、自由部門と課題部門では最優秀賞を受賞した。パテントコンテスト(大学部門)において優秀賞を受賞した。	S

平成28年度 年度計画	平成28年度 実績報告	自己評価	
5) 現在実施している社会奉仕活動や自然体験活動に、より多くの学生が参加できる体制の整備について引き続き検討し、参加意欲の向上のため、社会貢献に資する活動は積極的に全学に向けて紹介する。	5) 学校周辺の除草作業や清掃活動を実施した。 「瀬戸内国際芸術祭2016in高松」で学生が来校者のおもてなしや作品管理スタッフとして活動を行った。	A	A
(3) 優れた教員の確保 ① 多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように、関係団体等を通じて教員の募集活動を行い、高度な実務能力を持つ人材の発掘に努める。	(3) 優れた教員の確保 ① JRECE、関係学会、本校HP、機構本部HPIに公募要領を掲載し、高度な実務能力を持つ人材の発掘に努めた。	A	A
② (a) 長岡、豊橋の両技科大との人事交流制度を継続して活用するため、引き続き、候補者の選考を行う。	② (a) 学内において、高専・技科大間人事交流制度の候補者を選考した。	A	A
② (b) 四国地区高専間の教員人事交流を積極的に推進するため、引き続き、候補者の選考を行う。	② (b) 学内において、四国地区高専間教員人事交流候補者を選考した。	A	A
③ 専門科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を、採用時の条件とする。	③ 専門科目については、博士の学位を持つ者(数年内に取得見込みの者を含む)、一般教育科については、修士以上の学位を持つ者を条件に、教員公募を実施した。	A	A
④ (a) 女性教職員の就業環境改善のための女性用の更衣室、休憩室等について、必要に応じた整備を推進する。	④ (a) 整備計画に基づき、管理棟の女性更衣室・休憩室への改修の設計までを完了したが、予算が確保できていないため工事は保留のまま。 詫間キャンパス第一講義棟の女子便所について、女性への利便性向上のため、2階から3階へ変更する便所改修を実施。	S	S
④ (b) 採用条件を女性限定とした教員公募を実施する。 子育て、介護等を理由に、教員のキャリアが中断しないように、研究支援員配置事業を活用する。	④ (b) すべての教員公募において、「女性限定」又は「女性優先」の公募を実施した。 育児又は介護を行っている女性教員に、研究支援員を配置した。	A	A
⑤ (a) 高専機構の開催する各種研修会等へ適任者、参加希望者を積極的に派遣し、研修報告の学内周知を推進する。香川県教育センターが主催する教員研修講座、各種団体が開催する研修会等について、参加希望者を積極的に募り、派遣する。	⑤ (a) 学内で選考し、初任者研修、高専機構主催の管理職研修、中堅教員研修、アクティブラーニング研修、インストラクショナルデザイン研修等に教員を派遣した。 香川県教育センターが主催する教員研修講座等への参加希望者を募った。	A	A
⑤ (b) 各種啓発セミナー等の情報告知に努め、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修等を積極的に活用する。さらに、全教職員が参加するFD・SD研修会を開催する。	⑤ (b) 全教職員が参加するFD・SD研修会を実施した。 SPOD研修プログラム「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」を教員1名がオンラインで受講した。 FD・SD研修会を開催、全教職員を対象に、外部講師による公的研修費の不正防止に関するコンプライアンス研修、ハラスメント防止及びメンタルヘルズ研修を実施した。	A	A
⑥ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められた教員や教員グループを国立高専教員顕彰に推薦する。	⑥ 校長が教育・研究上優れた功績があると認められた教員について、国立高専教員顕彰に推薦した。	A	A
⑦ (a) FDの一環として、在外研究員及び内地研究員等の派遣候補者の選考を行う。	⑦ (a) 在外研究員及び内地研究員等の派遣候補者の選考を行い、平成29年度在外研究員1名の派遣を決定した。	A	A
⑦ (b) 長岡、豊橋の両技科大との人事交流制度を継続して活用するため、引き続き、候補者の選考を行う。	⑦ (b) 学内において、高専・技科大間人事交流制度の候補者を選考した。	A	A
(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム ①-1 (a)改訂計画に基づき新しい教育課程において、モデルコアカリキュラム(試案)やその改訂の学習到達目標・内容を照らし、適合度を確認する。	(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム ①-1 (a)改訂計画により、新しい教育課程表を作成し、モデルコアカリキュラム(本案)に適合する授業内容を検討している。平成30年度にはモデルコアカリキュラム(本案)に適合することを確認した。	A	A
①-1 (b)授業内容・方法改善のためのアクティブラーニング研修や到達評価のためのルーブリック評価研修等に参加する。全学で開催の教育実践事例報告会等でアクティブラーニング事例発表を行う。	①-1 (b)アクティブラーニングを推進、普及するためのアクティブラーニングトレーナー教員研修会、授業設計を行うための実践力を備えた教員養成のためのインストラクショナルデザイン研修に参加した。 全学で開催の平成28年度教育実践事例報告会において、アクティブラーニング事例報告発表を行った。	A	A
①-1 (c)遠隔授業を実施する。	①-1 (c)専攻科の科目の特別講義(×線結晶学)において、遠隔授業を実施した。 弓削商船高専とのG-netを利用した中継による特別講義を実施した。	A	A
①-2 「高専学生情報統合システム」の説明会に参加し、システム導入に関する具体的方策を検討する。	①-2 学生情報統合システムへ移行するため、現教務システムに関する情報をとりまとめ、機構本部事務局 情報推進室へソフトウェア、購入費用、保守料金費用などのデータを提出した。	A	A
② (a) 機関別認証評価の審査結果を有効に活用し、教育内容の充実・見直しを行い、教育の質の向上に努める。	② (a) 平成28年度機関別認証評価を受審し、評価された優れた点、特色のある点については更に推進している。また、指摘された改善事項については、改善に向けた対策を検討した。	A	A
② (b) 資格試験等の受験を推進し、資格取得状況を把握するとともに、受験者を支援するために在学中の取得資格を学修単位として認定する。	② (b) 学生用掲示板に受検案内ポスターを適宜掲示、TOEIC、無線従事者国家試験等を本校で実施するなど、学生の便宜を図った。資格取得が単位認定の対象となる資格の一覧を学生便覧に掲載し、年度末に学生の申請に基づき教務委員会で審議の上単位の認定を行った。	A	A
③ 交流活動取組情報を入手し、学生の大学や他機関提供の研修プログラム参加を推進する。	③ 弓削商船高専主催四国地区高専との連携・交流事業に伴う特別講義に26名参加した。また、日本原子力研究開発機構の夏季休暇実習、独立行政法人国立女性教育会館の女子中高生夏の学校2016、高専スペースキャンパスin四国2016等の案内を学生に周知した。	A	A
④ 教育実践報告会を全学レベルで開催して各学科の特色ある優れた取り組みを共有し、教育方法の改善を議論する。	④ 全学で開催の平成28年度教育実践事例報告会を実施し、アクティブラーニング事例報告や日頃の教育に関する取り組み等を共有し、教育方法の改善を議論した。	A	A
⑤ 機関別認証評価の平成28年度受審に伴う、自己評価書の提出、書面調査、訪問調査等への対応を行う。	⑤ 平成28年度機関別認証評価受審に伴う、自己評価書の提出、書面調査、訪問調査等への対応を行った。	S	S
⑥ 就職活動に役立つ情報をまとめた香川高専独自の「スケジュールダイアリー」をインターンシップ前に配布し、就職活動の一貫としてインターンシップへの積極的な参加を促す。インターンシップ先での研修内容や満足度を調査して、企業へ情報提供することでインターンシップの充実を図る。	⑥ 「スケジュールダイアリー」を高松キャンパス(4/28インターンシップ講座)、詫間キャンパス(7/15インターンシップ周知会)で配布して、就職活動だけでなくインターンシップでも参考となる内容を周知して活用するように指導した。インターンシップ報告会で発表した研修内容を来校した企業と話し合い、今後の研修内容を検討してもらっている。	A	A
⑦ (a) 企業人材を活用した「企業技術者活用経費事業」を津山・呉高専と連携して取り組む。	⑦ (a) プロジェクトとしては不採択となったため、取組みを中断した。 ただし、8月開催の高専フォーラムにおいて「企業技術者等の支援による社会実装教育」のオーガナイズセッションを開催した。	A	A
⑦ (b) 現役企業技術者を授業等に活用して、学生の実践的能力を向上させる。	⑦ (b) 企業技術者活用プログラムや香川県大学等魅力づくり補助金等を利用して、授業に企業技術者や経営者が参画した取り組みを行い、実践的能力向上や理解を進めている。 (事業実施: 詫間キャンパス7件、高松キャンパス18件)	A	A
⑦ (c) 香川高専人材バンクを利用して、高専OBの人材活用を推進する。	⑦ (c) 機械工学科において6月に1回実施した。具体的には、機械系企業を経営している本校OB1期生に機械工学技術者の社会的役割や将来展望などについて講話していただいた。	A	A
⑦ (d) 日本弁理士会や同四国支部との連携により知財教育事業を行う。	⑦ (d) 産業技術振興会とも連携して、知財を活かした産学連携講演会を開催した。この講演会には産学連携に取組んでいる弁理士を講師にして、事例紹介や連携方策等について紹介した。参加者は企業33名、教職員24名であった。	A	A
⑧ 長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム(技術者育成アドバンスコース)を実施する。	⑧ 長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム(技術者育成アドバンスコース)を実施した。Stage1の協働科目を高松キャンパスで開講した。	A	A
⑨ (a) e-Learning創造性教育コースを利用した授業、WebClass等を利用した演習を実施する。また、開発提供されたICT活用教材を積極的に利用する。教員に活用講習会等を行って、積極的な活用を促す。	⑨ (a) 創造性豊かな実践的技術者養成コースを利用したe-Learningを授業科目「通信工学セミナー」の前期に実施した。 WebClassを利用した、学生対象の演習20コース、アンケート調査1回を実施した。Blackboardを利用した、学生対象の演習30コース、コンクール1回を実施した。高知高専が開発した学生対象のICT活用教材の利用を検討した。	A	A
⑨ (b) 両キャンパスメールサーバの統合を視野に入れた調達の準備を進めてゆく。	⑨ (b) 仕様決定委員会を組織し、仕様決定委員会を開催し仕様を決定し、落札業者を決定した。4月3日(月)の切り替えに向け、学内周知などを進めている。	A	A
⑨ (c) 学校内の通信ケーブルの再敷設に関し、機構と連絡を取りながら準備を進めてゆく。調達の年度は機構の指示にしたがう。ネットワークシステムの調達に関しても機構と連絡を取りながら準備を進めてゆく。また、高松キャンパスにおいては、平成28年度に予定しているSINET接続回線の切り替えを行う。	⑨ (c) 高松・詫間キャンパスの通信ケーブルの再敷設は、平成29年12~2月に工事を実施し、予定通り工事は終了した。SINET接続のための専用回線は切り替え工事が終了し、TEST運用を開始している。 ネットワークシステムの調達は、機構の指示にしたがひ、事前にアテンドを終えた。来年度の9月中旬に切り替え工事を進める方向で計画を進めている。	A	A
(6) 学生支援・生活支援等 ① (a) 教職員対象に「メンタルヘルス」に関する講習会、学生対象に「自殺予防」「デートDV防止」講演会の実施と「メンタルヘルス」に関するアンケートを実施する。	(6) 学生支援・生活支援等 ① (a) 1年生対象に「自殺予防」講演会を実施(11月16日)した。2年生対象に「自殺予防」講演会を実施(7月6日)した。1年生対象に「デートDV」講演会を実施(7月20日)した。講演後に学生が提出したリポート(キャリア概論リポートを含む)から意識を変える効果が見えた。1~3年生対象に「Hyper-QU」を実施(7月)した。全学生(専攻科生も含む)を対象とした「自殺防止アンケート」を実施(1月10日)した。アンケート結果を受けて学生面談を行うことで早期対応ができた。	A	A
① (b) 自転車・自動二輪車の交通安全教室を実施する。 ・ネットリテラシーの講演会を実施する。 ・AED講習会を実施する。	① (b) 自転車・自動二輪車の交通安全教室(2年生:6/22(水)に実施 1年生:6/29(水)に実施)・ネットリテラシー(2年生:6/15(水)に実施 1年生:6/1(水)に実施)・AED講習会(体育系クラブ対象に6/23(水)に実施) 自転車・バイクの交通安全教室は交通事故多発県という観点からも大変重要であり、今後も交通事故防止のための注意事項を啓発していく。	A	A

平成28年度 年度計画	平成28年度 実績報告	自己評価		
2) 寄宿舎などの学生支援施設の実態調査とニーズ調査を実施し、その結果を踏まえて整備計画を推進する。	2) 実態調査・ニーズ調査としてアンケートを実施した。その結果を踏まえて寄宿舎の整備計画について、院間キャンパスの整備計画を改訂し、高松キャンパスは作成中。	A	A	A
3) 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、HPや香川高専だより、電子掲示や教室掲示を通して学生に迅速に周知する。	3) 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、HPや香川高専だより、電子掲示や教室掲示を通して学生に迅速に周知している。各種奨学金の推薦学生選考に当たっては、その都度学生小委員会が審議を語り、適切に決定していくことができた。	A	A	
4) キャリアサポートセンターによる進路ガイダンス、面接指導、合同企業説明会などの進路支援内容を見直し、効率的な支援が実施できるよう検討する。また、全体的な進路支援だけでなく、学生個別の進路支援の方法を検討する。	4) 就職活動スケジュールの變動により、進路支援講座の開始時期や履修書作成講座(高松2/21、院間12/19)、面接実技研修(高松3/23-24、院間3/19-20)、合同企業説明会(高松3/22、院間3/23)の開催日を2018年新年祝賀フェスティバルに合わせて実施した。また、1/29に保護者向け進路ガイダンスを実施した。	A	A	
(6)教育環境の整備・活用 ①-1 (a) 環境・施設マネジメント委員会を中心として施設マネジメント(施設の有効活用における利用状況調査・スペース再配分・インフラ寿命化計画等)を推進し、キャンパスマスタープランを策定する。	(6)教育環境の整備・活用 ①-1 (a) 環境・施設マネジメント委員会を開催し、また本部施設課との連絡調整を実施することにより、施設マネジメントを推進した。 キャンパスマスタープランを3月に策定。	S		
①-1 (b) 整備計画に基づき老朽施設・設備の整備を実施する。	①-1 (b) 整備計画及び学内からの要求に基づき、老朽施設・設備の整備を予算の範囲内で実施。	S		
①-1 (c) 老朽施設・設備の整備に併せて、省エネ化の取り組みを推進する。	①-1 (c) LED照明の設置及び省エネ空調設備への変更等を予算の範囲内で実施。	S		
①-1 (d) エネルギー使用状況の調査を実施し、省エネ活動の啓蒙を行う。	①-1 (d) 環境報告書や学内メールを利用し、定期的にエネルギー使用量の報告を行うことにより省エネ活動への啓蒙を図った。	S	S	
①-1 (e) アクティブラーニング等の学習環境の充実を図るための整備計画を推進する。	①-1 (e) 整備計画に基づき、院間キャンパス図書館改修の概算要求を行った。 また、講義室の大部屋化や一部内部改修を実施するなど、学習環境の充実を図った。	S		S
①-2 (a) 既に完了している構造体の耐震化に関しては、耐震部材の点検を実施し耐震性能の保全に努める。	①-2 (a) 既に完了している構造体の耐震化に関して、耐震部材の点検を実施。	S		
①-2 (b) 既に完了している非構造部材(屋内運動場の照明器具)の耐震化に関しては、点検を実施し耐震性能の保全に努める。	①-2 (b) 既に完了している非構造部材の耐震化に関して、耐震部材の点検を実施。	S		
①-3 平成27年度にてPCB廃棄物の処分は完了している。	①-3 香川県及び高松市へのPCB廃棄物処分完了報告を行った。	S		
2) 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための講習会の受講を促す。	2) 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付した。	A	A	
3) 「男女共同参画推進会議」を開催し、本校の現状を情報共有するとともに、女性教員にとって働きやすい職場環境の整備を推進するための方策を検討する。	3) 男女共同参画推進会議を開催し、本校の現状を情報共有するとともに、引き続き、女性教員にとって働きやすい職場環境の整備を推進する方策を検討した。 機構男女共同参画推進推進委員会を中心に、第4ブロックの男女共同参画推進担当者協議会を立ち上げた。	A	A	
2 研究や社会連携に関する事項	2 研究や社会連携に関する事項			
① (a) 高専機構新技術説明会、全国高専テクノフォーラム、イノベーションジャパン等において研究成果を積極的に発信するとともに、人的交流を図る。	① (a) 全国高専フォーラムに教職員11名が参加し、3名が発表した。 また、イノベーションジャパン、アグリビジネス創出フェア2016などに参加し、四国地区高専地域イノベーションセンターでも出張協力を行った。	A		
① (b) 科学研究費補助金等外部資金獲得のためのガイダンスを実施するとともに、応募可能な研究費プログラムや技術移転事業の紹介を的確に高知して積極的な申請を促進する。	① (b) 機構本部主催の科学研究費助成事業講習会を受講するとともに、本校校長による獲得説明会および担当事務による手続き説明会を開催した。また学内のグループウェアで外部資金公募情報を周知し、メール等でも積極的な申請について要請を行った。	A	A	
① (c) 機構本部研究推進経費(共同研究プロジェクト)への応募を促し、外部資金獲得につなげる。	① (c) 機構本部研究推進経費(共同研究プロジェクト)への応募を促した結果、筆頭1件、メンバー参加3名の採択となった。	A		
2) (a) 未来技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターについて、センター報や教員シーズ集を充実し、HP等を通じて情報発信を行う。	2) (a) センター報については経費削減のためホームページ掲載を行う予定である。 また、教員シーズについては、国立高専研究情報ポータル及びリサーチマップの更新を促進する取り組みを行った。	A		
2) (b) 教職員による企業見学会を実施し地域企業とのマッチングを推進するとともに、イノベーションセミナーの開催、香川高専専門学校産技術振興会と連携したシーズ発表会の開催により、企業技術者との交流を深め、企業からの技術相談を高専教員シーズに繋いで、共同研究プロジェクトへの展開を推進する。	2) (b) 9月に香川高専産業界技術振興会と共催で会員対象のシーズ発表会を開催し、14名の教員がショートプレゼンとポスター発表し会員との交流を深めた。 また、イノベーションセミナーを3回開催し会員との情報交換もしている。 なお、教職員による企業見学会を3月に2社訪問で開催した。	A		
2) (c) 「企業技術者活用経費事業」としてブロック連携校との合同シンポジウム及び学生による成果報告会を開催する。	2) (c) プロジェクトとしては不採択となったため、取組みを中断した。 ただし、8月開催の高専フォーラムにおいて「企業技術者等の支援による社会実装教育」のオーガナイズセッションを開催した。	A	A	
2) (d) 地域のイベント等で研究成果や技術シーズを発表する。	2) (d) 「G7香川・高松情報通信大臣会合」開催記念ICT見本市において、「農家と流通の需要マッチングシステム」の研究成果を発信した。 また、香川大主催の先端工学研究会に2件出展しシーズ発表を行った。	A		
2) (e) 外部講師による特別講演会を開催し、広い視野の涵養に努める。	2) (e) 企業技術者活用プログラム事業や風船助金等を利用して、授業に企業技術者や経営者が参画した取組みを行い、実践的な能力向上や理解を進めている。 (事業実施件数: 院間キャンパス4件、高松キャンパス7件)	A		A
3) (a) 学生、教職員への知的財産教育を行い、事業化可能な知的財産取得を推進する。	3) (a) 今年度はこれまで6件の発明申請があり、3件の特許出願を行った。	A		
3) (b) 学生向け及び教職員向けの知的財産講習会や知財管理検定受験講習会等を行う。	3) (b) 院間キャンパスにおいて、学生(5年生)を対象とした「知的財産の基礎編」「知的財産の応用編」の講演を実施した。	A	A	
3) (c) 学内発明コンテストを実施し、学生の知財意識の涵養をはかるとともに、学生による知財出願を支援する。	3) (c) 香川高専学生発明コンテストを実施し、36件の応募があった。また、前年度の実用新案権出願が登録された。	A		
4) (a) センター報、技術シーズ集などの研究成果をホームページに公開する。	4) (a) 国立高専研究情報ポータル及びリサーチマップを利用して本校HPに公開しており、情報の更新を教員に促している。	A		
4) (b) 香川高専HPに、未来技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターの活動をより詳細に掲載する。	4) (b) 香川高専HPに、随時、未来技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターの活動をより詳細に掲載している。	A		A
5) (a) 公開講座の情報発信・収集に、香川高専HP等の各種媒体を継続的に活用する。	5) (a) 公開講座などの情報発信・収集方法として、香川高専HPや双方情報発信サイト「香川高専ICTオープンキャンパス」をはじめとした各種媒体を継続的に活用したほか、市町村の広報誌に掲載、図書館及びコミュニティセンター等へのチラシ配布、市町村の防災無線による周知などを行った。	A		
5) (b) 小・中学校へのお出前授業や地域や企業技術者向けの公開講座をより積極的に実施し、その取組事例の情報発信に努める。	5) (b) 小・中学校へのロボット教室などのお出前授業や地域や企業技術者向けの公開講座をより積極的に実施しており、その取組をホームページ等を通じて情報発信している。	A		
5) (c) 地域やコミュニティセンター等でのイベントに積極的に参加協力する。	5) (c) 地域やコミュニティセンター等でのイベントに積極的に参加協力し、科学体験教室や簡易ロボット教室などを開催した。	A	A	
5) (d) 県・市や財団との連携による講座について、継続して充実を図る。	5) (d) 県・市や財団との連携による講座を継続して実施しており、企業技術者を対象とした最新技術基礎講座、高齢者を対象とした認知症講座及び介護予防講座、小学生を対象とした「ものづくり講座」を開催した。	A		
5) (e) 地元との結びつき技術者を対象とした組込み技術者セミナーなどの企業技術者の学び直し講座を開催する。	5) (e) 地元の技術者を対象とした組込み技術者セミナー(基礎コース・実力養成コース)を開催した。	A		
3 国際交流等に関する事項	3 国際交流等に関する事項			
①-1 (a) ISATE、ISTSへの参加を促進する。また、協定校とともに国際セミナーや国際シンポジウムを開催し、相互に学生受入と教職員派遣を推進して、交流の活性化を図る。そのために、海外の大学等との学術交流協定の締結をさらに進める。また、学生交流等に必要となる協定の実施細則編纂や更新、覚書取交を検討する。	①-1 (a) ISATE2016に教職員3名を派遣した。口頭発表後、ワークショップに参加し、その結果は教員会議で報告された。ISTS&JSTSに学術協議として2名、また個人参加として2名、合計4名の学生を派遣した。JSTSに4名を、ISTSには3名をそれぞれ派遣した。その結果を、全教職員及び学生を対象とした「学生による国際交流体験報告会」において報告した。また、学際祭においても活動内容を展示し、情報発信した。 タイのラジャマングラ工科大学タムブリ校(RMUTT)と国際会議MSES2016を共催し、教員6名を派遣した。さらに本料及び専攻科学生を7名派遣した。 フランスのトゥール大学と国際会議GEE2016を共催し教員2名を派遣した。さらに学生1名約3ヶ月間受け入れた。マレーシアのマラ工科大学(UTM)と国際会議MANOS2017を共催した。教員3名、学生3名を派遣し、教員間における学術交流を促した。UTM&MOU及びMOAOの更新作業を行い、更新文書の準備を完了した。 さらにGET短期研究型受け入れプログラム期間中、学会の協賛を得て国際学術セミナーを開催した。 外国人留学生に対し、6月に受け入れ説明と歓迎会として、また12月にはその後の生活等のフォローアップとして、留学生の対応を担っている外部団体の方々を交えて留学生交流会を実施した。	A		
①-1 (b) 教育の質の維持・向上を図りながら、教員能力開発・指導力強化のための在外派遣事業に取り組む。また、教員の研究シーズ集を準備し、機構協定校ならびに本校の協定校の研究マッチングを促進する。	①-1 (b) フランスのトゥール大学に第1次GETプログラムとして、約3ヶ月間、専攻科学生を1名派遣した。 学術交流協定を結んでいるマラ工科大学に2月中旬から3月中旬までの約3週間、第2次GETプログラムとして、学生3名を学術交流として派遣した。今後の学術交流及び学生間の交流を深めるため、タイのラジャマングラ工科大学タムブリ校(RMUTT)から教職員43名を受け入れた。RMUTT教職員及び本校教職員23名が一同に集い、今後の活動について意見交換し、具体的な計画を立案した。その協議の結果を受け、第3次GETプログラムとして、3月始めに学生7名を派遣した。さらに、長期受け入れに関する研究シーズのアップデートを行った。	S		

平成28年度 年度計画	平成28年度 実績報告	自己評価	
①-2 (a) 日本学生支援機構(JASSO)等の奨学金制度へ積極的に申請し、本校独自のグローバル・エンジニア・トレーニング・プログラム(GETプログラム)を開催し、本校との協定校との間で学生の短期派遣や短期入受を推進する。	①-2(a) 学術交流協定締結大学への学生派遣及び受け入れプログラム、GETプログラムを提案、JASSOに対し支援を申請した。その結果、派遣プログラムは、5年連続で採択された。また受け入れプログラムも1月に追加採択された。これを受け、派遣プログラムとして、11人を派遣、15名の大学院生を受け入れた。	S	S
①-2 (b) 受け入れ拠点の拡大に努めて海外インターンシップへの参加やISATE、ISTSでの学生交流を支援する。	①-2 (b) ISATE2016に教員3名を派遣した。 ISTS&ISTSに学校推薦として1名、個人参加として2名、合計3名の学生を派遣した。 タイのラジャマングラ工科大学タンヤブリ校(RMUTT)と国際会議EMSES2016を共催し、教員6名を派遣した。さらに学生を7名派遣した。 フランスのトゥール大学から学生を1名約3ヶ月間受け入れた。 マレーシアマラ工科大学(UiTM)と国際会議NANOSciTech2017を共催し教員3名、学生3名を派遣した。 UiTMとMOU及びMOUを結ぶ。 外国人留学生に対し、受け入れ説明として、またその後の生活等のフォローアップとして、留学生交流会を6月と12月の2回実施した。 「ISTS2014」でPresentation Awardsの受賞歴を持つ専攻科生が、ノーベル賞授賞式に招待され、「ストックホルム国際青年科学セミナー2016」に高専生として初めて参加(世界17カ国から24名、日本から2名)。高専機構理事長特別表彰を授与された。	S	S
①-2 (c) 本校と協定校とで共催する国際シンポジウムを継続して実施する。これにより学生の海外派遣をさらに促進する。	①-2 (c) タイのラジャマングラ工科大学タンヤブリ校(RMUTT)と国際会議EMSES2016を共催し、教員6名を派遣した。 マレーシアマラ工科大学(UiTM)と国際会議NANOSciTech2017を共催し、教員2名と学生3名を派遣した。 GEE2016を共催し、教員2名を派遣した。	S	S
①-2 (d) 学生による国際交流体験報告会等の行事を継続する。トビタテ!留学JAPANなどの紹介により、学生の意識向上を図る。	①-2 (d) 学生による国際交流体験報告会を2回開催した。 学園祭で国際交流活動を全校生及び来場した地域の方々へ紹介した。 トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム 理系、複合・融合系人材コースに専攻科生が1名応募、地域人材コースに本科生が1名応募し、いずれも採択された。	A	S
② (a) 協定校からの学生の短期入受に必要な環境整備に関する調査を行う。また、本校学生寮への受け入れを寮務関係教職員と連携し、検討する。	②(a) 協定校であるフランスのトゥール大学、RMUTT、UiTMと受け入れ及び派遣に関する計画を立案、実施した。 更にこの結果をもとに、正修科工科大学と受け入れに関する協議を行った。 学生課及び寮務主事と短期及び長期留学生受け入れについて協議し、寮の受け入れを可能にした。	A	A
② (b) 国際交流センター等の情報を収集し、留学生への教育・支援・指導に関する更なる充実策を検討する。	②(b)国際交流センター長会議に出席し、留学生への教育・支援・指導に関する意見交換を行った。	A	A
② (c) 国際交流協定校からの留学生の受入を円滑に行い、かつ快適な居住環境を提供するため、必要に応じた寄宿舎整備を推進する。	②(c) 短期及び長期留学生受け入れについて検討した。 浜松キャンパスでは、職員研修施設「自衛会館」での長期滞在を実現した。また、読聞キャンパスにおいては、年度当初の節度の利用計画時に、短期留学生も利用者の候補に入れるよう検討し、寮が改修・整備を行っていた寮室に受け入れて、それを実現した。両キャンパスでの長期滞在を実現した。	A	A
③ (a) 外国人留学生に対し、文化交流行事や専門教育に関する研修を実施する。留学生交流会と留学生見学旅行を実施するとともに、四国地区及び全国規模の文化交流事業への参加を支援する。	③(a) 1月に留学生とチュータを対象とした見学旅行を実施した。 四国地区総合文化祭で留学生を対象にした催しを主催した。	A	A
③ (b) 協定校からの短期入受を推進するとともに協定校への短期派遣を企画する。また、学生支援機構 (JASSO)の支援申請を推進する。	③(b) フランストゥール大学から学生1名を約3ヶ月間受け入れた。更に本校から専攻科生1名を約3ヶ月間派遣した。 JASSOの受け入れ支援の追加採択に応募し、追加採択された。 9月にUiTMから大学院生15名を受け入れた。	S	S
4 管理運営に関する事項	4 管理運営に関する事項	A	A
① (b) 両キャンパス一体となったスケールメリットを生かし、予算編成において、戦略的かつ中長期の事業計画に基づく序列配分を行う。	① (b) 校長裁量経費を財源とした学内競争的資金を設け、高松・読聞両キャンパス間共同研究支援経費の配分、また、教育、研究プロジェクト支援のためのインセンティブ経費の配分など、戦略的な予算の序列配分を行った。	A	A
③ 平成28年度受審する機関認証評価の自己評価書作成の過程を通じて、管理業務の集約化やアウトソーシング等の活用により効率化が図られる業務の可能性について検討する。	③ 契約事務について、一部請負業務(清掃、警備等)は両キャンパスを集約して契約を行うことで、効率化及び省力化を図っている。また、自動車運転業務のほか、平成28年度より送達業務をアウトソーシング化している。これら以外についてはアウトソーシング化及び集約化できる業務を洗い出しているところである。	A	A
④-1 (a) コンプライアンス意識向上を目指し、機構本部が実施する全国の学校を対象とした階層別研修や各種説明会に参加するとともに、コンプライアンス意識向上に関するセルフチェックを実施する。	④-1 (a) FD・SD研修の中で、全教職員を対象に、公的研究費の不正防止に関するコンプライアンス研修を実施した。 全教職員を対象に、コンプライアンス意識向上に関するセルフチェックを実施した。	A	A
④-1 (b) 整備した納品検収体制の実効性を検証する。	④-1 (b) 納品検収体制の責任所在を明確化するため、発注者、検収者を裏にした担当者一覽表の整備を行うとともに、納品書への交付印に併せて検収担当者印の押印を義務付け、納品検収体制の実効性を高めた。	A	A
④-1 (c) 会計事務担当者の規範意識向上、スキルアップのための研修を実施する。	④-1 (c) 会計事務担当者への会計規則等研修会(初級及び中級・上級)を1月に実施し、職員の規範意識向上、スキルアップを図った。	A	A
④-2 (a) 階層別研修等に積極的に教職員を派遣し、全学に向けてコンプライアンス意識を浸透させる措置を講ずる。	④-2 (a) FD・SD研修の中で、全教職員を対象に、公的研究費の不正防止に関するコンプライアンス研修を実施した。	A	A
④-2 (b) 危機管理に対応するための緊急連絡網の更新を遅滞なく行い、勤務時間外における地震発生時の体制を定期的に周知する。	④-2 (b) 危機管理に対応するための緊急連絡網の更新を遅滞なく行い、勤務時間外における地震発生時の体制を定期的に周知している。	A	A
④-2 (c) 健康管理への意識向上のため、外部講師による健康に関する講演会を実施する。	④-2 (c) 各キャンパス産業界による健康講話を開催した。	A	A
⑤ 公的研究費に関する内部監査マニュアルに基づき内部監査を実施し、監査結果については、情報共有し、効率的・効果的かつ多角的な監査が可能となるよう、監査項目の見直し等について検討する。	⑤ 機構本部作成「公的研究費に関する内部監査マニュアル」に基づき、キャンパス間相互会計内部監査を12月に実施し、規則に則った会計事務処理の確認、また、運用上におけるキャンパス間での整合性を確認した。	A	A
⑥ 「研究機関公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「高専機構公的研究費不正防止計画」に基づき、公的研究費等の不正使用を防止する。	⑥ 公的研究費等の不正使用の再発防止策を徹底するため、年度当初(4月)に新任教職員を対象とした、研究費等不正使用防止に関する研修会を実施した。 また、9月には全教職員を対象としたFD・SD研修会において、監査法人トーマツによる「公的研究費の不正防止に関するコンプライアンス研修」について、講演を実施し、研究費等不正使用防止対策の取り組みを行った。	A	A
⑦ 事務職員や技術職員の能力の向上を図るため、必要な研修会への参加を推進するとともに、優秀な取り組みを行ったと認められる事務職員及び技術職員又はそのグループについて、職員表彰制度に推薦を検討する。	⑦ 機構本部、国立大学法人等が主催する研修会に積極的に派遣するとともに、優れた取り組みを行った技術職員について、職員表彰制度に推薦し、理事長賞を受賞した。SPOD主催の「大学人社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベル1)」に若手職員2名を派遣した。	S	S
⑧ 他機関人事担当者との連絡を活用し、事務職員及び技術職員についての人事交流計画・復帰後の効果的配置を策定する。	⑧ 近隣大学の人事担当者と面談し、人事交流計画の効率的活用を話し合った。 平成29年度から、事務職員1名を香川大学に派遣することが決定した。	A	A
⑨ (a) 高専機構が策定する情報セキュリティ手順に基づき、手順書の策定、更新を継続して進める。	⑨ (a) 高専機構の指示にしたがい、以下を実施した。 (1)情報セキュリティインシデント対応手順の作成、提示 (2)情報セキュリティインシデント発生対応に係る緊急連絡網の更新 (3)情報セキュリティ委員会規程の改正、「保有サーバー確認調査」、「アクセス記録簿」の各様式の整備 現在、情報移送に関する各種様式を整備している。	A	A
⑨ (b) 高専機構その他機関の実施する情報セキュリティ教育・研修を利用し、教職員の情報セキュリティ意識向上を図る。	⑨ (b) 機構主催の「情報セキュリティインシデントに係る臨時連絡会」へ教職員12名が参加した。 機構主催の情報担当者研修会(各種セキュリティに関する研修が含まれる)へ教職員4名が参加した。 機構主催の「職員を対象とした情報セキュリティ教育」を100%の教職員が受講した。	A	A
⑩ (a) 機構の示す成果指標に基づき、全学委員会等において、所掌事項における年度計画の策定や事業実績の分析評価を検討する。	⑩ (a) 企画評価室が、年度計画の策定及び実績報告書の取りまとめ並びに計画・評価に係る情報の収集、調査、分析を行った。	A	A
⑩ (b) 機構の示す成果指標に基づき、各学科・室・センター・施設等の特性に応じた具体的な取り組みを検討する。	⑩ (b) 機構の事業に対応し、各学科・室・センター・施設等の特性に応じた具体的な取り組みを検討した。	A	A
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置	S	S
(a) 一般管理費削減のため、契約の競争性を高め経費削減を図るとともに、ファイル等既存物品の再利用など、消耗品のコスト削減を実施する。	(a) 一般管理費削減のため、用紙削減の取組み(ペーパーレス化や両面・集約印刷の推進)を実施した結果、コピー用紙の購入料が前年度に比べて約170千円削減できた。 また、読聞キャンパスの電力受給契約を一般競争入札した結果、今年度より新電力会社と締結し、前年度に比べて電気の使用料が約2,720千円削減できた。	S	S
(b) 契約にあたっては、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど、競争性の確保に努める。	(b) 契約にあたっては、原則、一般競争入札等によるものとし、企画競争、公募の場合においても、競争性・透明性の確保を図った。これらの実効性について、キャンパス間相互会計内部監査を12月に実施し、確認した。	A	A

平成28年度 年度計画	平成28年度 実績報告	自己評価		
Ⅲ 予算(人件費の見直しを含む。), 収支計画及び資金計画 外部資金獲得のため、校長のリーダーシップの下、校長裁量経費を学内競争的資金としてインセンティブに利用し、効果的かつ戦略的な経費配分を実施する。	Ⅲ 予算(人件費の見直しを含む。), 収支計画及び資金計画 校長のリーダーシップの下、校長裁量経費を学内競争的資金としたインセンティブ経費として有効活用するとともに、外部資金(科学研究費補助金)への申請率の向上を図り、代表者の申請率が96%と昨年度を10%以上上回る高申請率を維持した。また、新規採択数(代表者)についても昨年度に比べ3件増加した。	A	A	A
IV 短期借入金の限度額	IV 短期借入金の限度額	/	/	/
V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 土地の譲渡に向けた諸手続を、予算を鑑みながら実施する。	V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 中期計画で定めた、駒込町団地の一部土地(約5,606㎡)の譲渡等の手続きについて、現在、土地境界確定及び当該土地の分筆登記は完了しており、譲渡等に向けた諸手続については、機構本部からの指示待ちである。	A	A	A
VI 剰余金の使途	VI 剰余金の使途	/	/	/
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 (a) 整備計画に基づき老朽施設・設備の整備を実施する。 (b) 老朽施設・設備の整備に併せて、省エネ化の取り組みを推進する。 (c) 整備計画鳥瞰図や施設白書により、本部施設課と情報を共有し施設マネジメントの充実を図る。 (d) 環境報告書を作成し公表する。	Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 (a) 整備計画及び学内からの要求に基づき、老朽施設・設備の整備を予算の範囲内で実施。 (b) LED照明の設置及び省エネ空調設備への更新等を予算の範囲内で実施。 (c) 整備計画鳥瞰図や施設白書により、本部施設課と情報を共有し施設マネジメントの充実を図った。 (d) 環境報告書2016を作成し、HPIにて公表。	S	S	S
2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施又は他機関研修に派遣支援することで資質の向上を図る。 (2)人員に関する計画 FDやSD等による常勤職員の職務能力向上に努めるとともに、事務組織の効率化を図る。	2 人事に関する計画 (1)方針 高専・技科大間教員交流制度により、豊橋技術科学大学に、教員を1年間派遣し、人事交流を実施した。高専機構本部、国立大学法人等の他機関主催の研修に教職員を派遣し、資質の向上を図った。平成29年度から、事務職員1名を香川大学に派遣することが決定した。 (2)人員に関する計画 SPOD主催の「大学人社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベル1)」に若手職員を派遣し、職務能力の向上に努めるとともに、人事異動を通じて、事務組織の効率化を図った。	A	A	A